

授業科目名	ナラティブ表現法		担当教員	足立 智孝	科目ナンバリング LE104
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：演習30時間		

【授業概要】

会話表現と話と文章表現の三側面におけるコミュニケーション能力の向上を目指して、「相手とのずれを埋める」ために「相手の視点を取り合う」というコミュニケーションの原理を学ぶ。

【達成目標】

看護師として健康問題の当事者との援助関係を成立させるとともに、看護師やその他の専門職とのチームワークを確立する上で必要な会話及び文章によるコミュニケーションの基礎について、講義と演習を通じて学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] インTRODクシヨンー表現することとナラティブ
- [02] ナラティブについて1ー「聴く」「語る」ことの意味
- [03] ナラティブについて2ーナラティブとケア
- [04] 聴くことについて1ーグループワーク演習
- [05] 聴くことについて2ーグループワーク演習の振り返りとまとめ
- [06] 文章で表現するー文章表現演習1
- [07] 集団・組織におけるコミュニケーション1ーグループワーク演習
- [08] 集団・組織におけるコミュニケーション2ーグループワーク理論とその評価
- [09] 書く基本を学ぶー文章表現演習2
- [10] 感情を文章で表現する
- [11] 文章表現のルール1ー修飾、句読点、段落分け
- [12] 文章表現のルール2ー適切な単語の使用、漢語と大和言葉
- [13] 文章表現のルール3ー文章骨格と文章読解1
- [14] 文章表現のルール4ー文章骨格と文章読解2
- [15] レポート作成の方法ーレポートの自己添削

【教科書】

1. 学習技術研究会(2019)：知へのステップ 第5版ー大学生からのスタディ・スキルズ、くろしお出版

【参考書】

1. 野口裕二(2002)：物語としてのケアーナラティブアプローチの世界へ、医学書院
2. 宮坂道夫(2020)：対話と承認のケアーナラティブが生み出す世界、医学書院
3. 平田オリザ(2015)：対話のレッスンー日本人のためのコミュニケーション術、講談社
4. 石川ひろの(2020)：保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門、大修館書店
5. 大野晋(1999)：日本語練習帳、岩波書店

【評価方法・評価基準】

課題レポート(2つ)：60%、授業レポート：35%、Kame ドリル課題(国語)：5%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次回授業の資料を事前に予習すること(1時間)。

事後学習：授業での学びを日常的なコミュニケーションに生かすように努めること(1時間)。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについて授業時にフィードバックを行う。

【備考】

援助関係の形成能力を習得することを学習目標としており、多くの専門科目と関連があるので、この科目で学んだことを各科目の学習に生かすことを心掛けて欲しい。